

第 185 回 学長定例記者会見

日時：令和 7 年 11 月 26 日（水）10：45～11：15

場所：メイン会場：広島大学東広島キャンパス 法人本部棟 5 階 5F2 会議室

サブ会場：広島大学東千田キャンパス A304 棟中会議室

※サブ会場は、テレビ会議システムによるオンライン参加

※ 会見終了後、YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 附属学校園の機能強化について
2. 外国人留学生を支援する新たな制度を創設します
3. 「2025 年ノーベル賞解説講演会」を開催します（12/14 開催）

【お知らせ事項】

1. 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（通称 J-PEAKS）」の取組に関する報告
2. 原爆放射線医科学研究所 被爆 80 年企画シンポジウムを開催します
（12/20 開催）
3. 「HIRAKU-Global 国際シンポジウム」開催のお知らせ（1/19 開催）
4. 総合博物館イベント 第 34 回ふむふむギャラリー
「被爆 80 年、霞キャンパスで学ぶ近代遺跡」（12/1-1/30 開催）
5. ～吃音のある若者が、接客を通して社会とつながる場を創出～
第 1 回「注文に時間がかかるカフェ in 広島」開催します（12/7 開催）
6. 『広島大学 75 年史 部局史編』を公開しました

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和 7 年 12 月 22 日（月）

場所： 広島大学 霞キャンパス



令和 7 年 1 1 月 2 6 日

広島大学附属学校園の機能強化策について

広島大学附属学校園の機能強化策について、令和 5 年 3 月に発表した福山地区及び幼稚園の取組に加えて、令和 9 年度以降の取組を整理しました。概要は以下のとおりです。

< 概 要 >

本学附属学校園が、大学と一体化して、我が国の初等・中等・高等教育を包括した教育改革を牽引できるよう、附属学校の本来の使命や国の教育政策を踏まえ、それぞれの附属学校園の役割・学校種・規模の見直しを行います。

< 翠地区（附属小学校・附属中学校・附属高等学校） >

本地区は、これまでの SSH（スーパーサイエンス・ハイスクール）などの実績を踏まえ、本学附属学校園の先導的・実験的な教育研究拠点とします。高度かつ国際的に通用性の高いカリキュラムの開発などの教育研究を展開します。

< 東雲地区（附属東雲小学校・附属東雲中学校） >

本地区は、令和 1 1 年度から附属東雲小学校・附属東雲中学校を「附属東雲義務教育学校」に改組し、小中一貫カリキュラムをはじめ、これまでの複式学級の研究を発展させた異年齢学級や特別支援学級を活かした多様性の教育の研究拠点とします。

< 三原地区（附属幼稚園（三原園舎）・附属三原小学校・附属三原中学校） >

本地区は、附属幼稚園（三原園舎）と附属三原小学校が同じ敷地にあり、地元三原市などとの人事交流が活発な特長を活かし、幼小連携・公立学校のモデルとなる研究を行う拠点とします。幼小連携教育とともに、公立学校の課題について、教育委員会・大学と協働して課題解決を図る仕組みを創設し、その解決を図ります。

また、各学校の学級定員を、公立学校の実態や各地区の役割・機能などに合わせて変更します。

【お問い合わせ先】

教育室附属学校支援グループリーダー 森根
TEL:082-424-6961 FAX:082-424-6968



令和 7 年 1 1 月 2 6 日

外国人留学生を支援する「広島大学グローバル博士
フェローシップ制度」を創設します

広島大学では、博士課程後期に入学する外国人留学生の増加を図るとともに外国人留学生が安心して研究に集中できる環境を整え、我が国の将来の科学技術・イノベーションに貢献し、世界の未来を担う人材となる博士課程後期学生を支援・育成し、羽ばたかせることを目的として、令和 8 年度から新たに「広島大学グローバル博士フェローシップ制度」を創設し、博士課程後期に入学する外国人留学生計 30 人に対し経済支援を行います。

本制度では、広い視野と知識をもち、優れた判断力と行動力を有する総合的な力で、我が国の将来の科学技術・イノベーションに貢献し、世界をより良くする取り組みを推進できる人材を求めます。特に、広島大学で博士号を取得した後も我が国の科学技術・イノベーション創造に直接携わる意思を有する者を求めており、審査においてもこの点を重視します。

採択した学生は研究員として雇用し、給与および研究費を支援します。

また、「広島大学創発的次世代研究者育成・支援プログラム」により、海外研究機関への研究留学の機会提供や、トランスファブルスキルの習得、キャリア開発・育成に係る様々な取組に参加頂きます。(※)

※「広島大学創発的次世代研究者育成・支援プログラム」は、令和 9 年度から参加可能となる予定。

【募集人数】

- ・2026 年 4 月に、本学の博士課程後期又は 4 年制の博士課程に入学予定の外国人留学生 3 人程度。
- ・2026 年 10 月に、本学の博士課程後期又は 4 年制の博士課程に入学予定の外国人留学生 7 人程度。

【支援概要】(予定)

支援方法：研究員として雇用

支給額：月額 144,000 円を上限として給与を支給（年間 1,728,000 円を上限）

支援期間：最大 3 年間（4 年制の博士課程は最大 4 年間）（標準修業年限内に限る）

研究費　：支援期間中に限り年間最大 40 万円（半期 20 万円）の研究費を
配分

支援人数：1 学年あたり 10 人程度（3 学年で最大 30 人）

その他の条件：

応募資格や条件が付されますので、必ず募集要項を確認すること。
国による留学生対象の新たな支援制度が創設された場合、本制度は
終了します。

【募集時期】2026 年 4 月支援開始分については、令和 7 年 12 月 8 日（月）
の募集開始を予定しています。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室 研究推進グループ　清戸　義博 TEL:082-424-4614 メール：gakujutu-k-gl@office.hiroshima-u.ac.jp
--

第 185 回 学長定例記者会見 発表事項 3

令和 7 年 11 月 26 日

**「2025 年ノーベル賞解説講演会」を開催します
(12/14 開催)**

今年のノーベル物理学賞は、電気回路における巨視的量子トンネル効果とエネルギー量子化の発見によりアメリカの大学の研究者 3 人が受賞しました。

ノーベル化学賞には、新しいタイプの結晶構造—MOF の開発を行った京都大学の北川進氏とオーストラリアの大学の研究者、アメリカの大学の研究者の 3 人が選ばれました。

またノーベル生理学・医学賞には、制御性 T 細胞による免疫の過剰な働きを抑える仕組みの発見に対して、大阪大学の坂口志文氏とアメリカの研究者 2 人の 3 人が選ばれました。

これらを受けて当センターでは、一般の方、学生、教職員を対象として、2025 年ノーベル物理学賞、ノーベル化学賞、ノーベル生理学・医学賞についての解説講演会を開催いたします。是非ご参加ください。

記

【日時】2025 年 12 月 14 日（日）13:00～16:30（開場 12:30）

【場所】広島大学東千田キャンパス A402 講義室
（広島市中区東千田町 1-1-89）

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

【講演者・タイトル】

13:00～ 八木 隆多（広島大学大学院先進理工系科学研究科・准教授）

「今年のノーベル物理学賞って何？」

14:00～ 久保 優（広島大学大学院先進理工系科学研究科・准教授）

「PCP/MOF と“ガスの時代” —ナノ空間が地球を救う—」

15:00～ 河野 洋平（広島大学大学院医系科学研究科・准教授）

「免疫のバランスを保つ —制御性 T 細胞と病気の関係—」

16:00～ 質問コーナー

【参加費】無料

【お申し込み】不要

【お問い合わせ先】

広島大学理学部附属未来創生科学人材育成センター
E-mail : ri-yugo@hiroshima-u.ac.jp
Tel : 082-424-4384

2025年

ノーベル賞 解説講演会

○ 事前申込不要
○ 参加費 無料
どなたでもご参加ください

日 時

12月14日(日)
13:00-16:30 (開場12:30)

場 所

広島大学東千田キャンパス
A402講義室

13:00- 物理学賞

今年のノーベル物理学賞って何？

八木 隆多

大学院先進理工系科学研究科
准教授



14:00- 化学賞

PCP/MOFと“ガスの時代”ーナノ空間が地球を救うー

久保 優

大学院先進理工系科学研究科
准教授



15:00- 生理学・医学賞

免疫のバランスを保つー制御性T細胞と病気の関係

河野 洋平

大学院医系科学研究科
准教授



講演終了後

質問コーナー

■ アクセス

バス: JR広島駅→南口バス乗り場 広島バス(50号東西線)アルパーク方面行き→「日赤病院前」下車 徒歩2分
電車: JR広島駅→市内電車乗り場 広電1番広島港行き→「日赤病院前」下車 徒歩2分
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

■ お問い合わせ

広島大学理学部附属未来創生科学人材育成センター

Email: ri-yugo@hiroshima-u.ac.jp
Tel: 082-424-4384

令和 7 年 11 月 26 日

**「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業
(通称 J-PEAKS)」の取組に関する報告**

日本全体の研究力を牽引する地域中核拠点として、一昨年度、広島大学は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(通称 J-PEAKS)」に採択されました。

本学は、半導体・超物質、再生・細胞医療・創薬の融合研究領域を中心に、世界的に稀少な紫外線(UV)領域の放射光による可視化を基盤として、研究力向上戦略を推進します。また、「人・知・資源の好循環」のハブとして異分野融合エコシステムを形成し、国際頭脳循環・産業集積を促進します。

地域中核拠点の形成に向けた本学のさまざまな取組みについて、最新情報をお知らせします。

(1) 半導体関連国際展示会「SEMICON Japan 2025」に出展します

2025 年 12 月 17 日(水)～19 日(金)に東京ビッグサイトで開催される「SEMICON Japan 2025」(公式 HP: <https://www.semiconjapan.org/>)に出展します。

広島大学からは、J-PEAKS で重点的に支援する半導体分野から、先端研究をはじめ産学連携や人材育成の取組など、幅広いテーマを発信します。最先端技術の集まる展示会場にて、ぜひ広島大学ブースへお立ち寄りください。

「アカデミア Award 最終審査進出研究室に、半導体産業技術研究所黒木研究室が選出されました。」

SEMICON JAPAN が主催する「第 4 回アカデミア Award」は、大学・高等専門学校の研究室による半導体関連の研究成果を広く発信し、優れた取り組みを表彰する制度です。厳正な審査の結果、全国から未来の半導体を担う 8 研究室が選出され、広島大学からは半導体産業技術研究所の黒木研究室が選ばれ、12/17 に実施される最終審査(＝二次審査)に進出することが決定しました。

黒木研究室は、2023 年にはアカデミア AWARD 最優秀賞に選出されており、学生達の益々の活躍が期待されますので、皆様の応援をよろしくお願い致します。

小間番号	出展者名	出展概要
W1203	広島大学	広島大学半導体産業研究所および研究所が有する共用設備や機器の紹介
E6811	広島大学 × 神戸大学 (共同出展)	広島大学と神戸大学との連携による人材育成や各種取り組み、研究シーズ等の展示
E6854	広島大学 量子半導体工学研究室	全く新しい原理に基づいた高精度非接触温度測定技術の展示
E6875	広島大学 半導体産業技術研究所 黒木研究室	廃炉・宇宙開発のための SiC 集積回路・イメージセンサ
E6881	広島大学 半導体産業技術研究所 寺本研究室	デバイス構造×プロセス技術で拓く次世代半導体

(2) バイオ関連パートナーリングイベント「BioJapan2025」に出展しました

2025年10月8日～10日にパシフィコ横浜で開催されたBioJapan2025にブース出展を行い、J-PEAKSで重点的に支援する医療・創薬関連分野から、臨床応用を志向したバイオ医療分野に関わるテーマなど、企業連携や社会実装を見据えた先進的な研究テーマを出展しました。

ブース出展期間を通じて、企業・大学116機関から総勢146名の来訪があり、多くの参加者に本学の取組を紹介することができました。



地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）とは？

地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営のもと、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力を強化することで、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的とした事業。Program for Forming Japan's Peak Research Universities の通称。

広島大学は2023年度に採択され、2028年度までの6年間で総額55億円の財政支援が予定されています。

【J-PEAKS 特設ウェブサイト】 <https://j-peaks.hiroshima-u.ac.jp/>



【お問い合わせ先】

学術・社会連携室
未来共創科学研究本部
研究戦略部 研究戦略グループ 前田
TEL:082-424-5656
Mail: gakujutu-strategy-gl@office.hiroshima-u.ac.jp



第 185 回 学長定例記者会見 お知らせ事項 2

令和 7 年 1 1 月 2 6 日

原爆放射線医科学研究所
被爆 80 年企画シンポジウムを開催します

原爆放射線医科学研究所では、「被爆 80 年に見る広島大学の科学と平和」と題し、以下のとおりシンポジウムを開催いたします。

被爆 80 年の節目の年に、広島から平和のあり方を改めて考える機会となれば幸いです。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日 時 : 2025 年 12 月 20 日(土) 13:00~16:20
会 場 : 霞キャンパス内 凌雲棟 3 階 R304 (広島市南区霞 1-2-3)
対 象 : どなたでもご参加いただけます
参加費 : 無料
申込み : チラシに記載の申込フォームから
タイトル : 「被爆 80 年に見る広島大学の科学と平和」

<プログラム>

【第 1 部 [講演]】 霞キャンパス被爆 80 年の現在地

- ・大学院医系科学研究科(医) 教授 村上 祐司
- ・大学院医系科学研究科(歯) 教授 柿本 直也
- ・大学院医系科学研究科(薬) 教授 紙谷 浩之
- ・原爆放射線医科学研究所 教授 廣橋 伸之

【第 2 部 [報告]】 ノーベル平和賞と広島大学の科学者

- ・日本パグウォッシュ会議代表 (情報メディア教育研究センター教授)
稲垣 知宏 及び 学生
- ・IPPNW 日本支部事務総長 (原爆放射線医科学研究所教授)
田代 聡 及び 学生

【お問い合わせ先】

広島大学霞地区運営支援部総務グループ (原医研主担当)
TEL:082-257-5802 FAX:082-255-8339

広島大学原爆放射線医科学研究所 被爆80年企画シンポジウム

被爆80年に見る 広島大学の 科学と平和



－第1部－

霞キャンパス被爆80年の現在地

13:00～14:50 (予定)

広島大学医学部の前身校・県立広島医科大学は、1945年8月5日に開校しました。戦後、医学部は陸軍兵器補給廠の赤レンガから出発し、現在の霞キャンパスが形作られてきました。第1部では、原爆を経験し、命を奪う軍事の場から転換して命を生かす医療と医学の場となって、地域とともに歩んだ霞キャンパス－医学部、歯学部、薬学部、原爆放射線医科学研究所－の【これまで】を振り返り、【これから】を考えます。

▼ 講演 ▼

大学院医系科学研究科（医）教授 村上 祐司
大学院医系科学研究科（歯）教授 柿本 直也
大学院医系科学研究科（薬）教授 紙谷 浩之
原爆放射線医科学研究所 教授 廣橋 伸之

－第2部－

ノーベル平和賞と広島大学の科学者

15:00～16:20 (予定)

今秋、ノーベル平和賞を受賞した科学者組織の大会が2つの被爆地で開催されますが、ここに、広島大学の研究者が尽力しています。第2部では、広島開催のバグウォッシュ会議で活躍する稲垣 知宏 日本バグウォッシュ会議代表（情報メディア教育センター教授）と長崎開催のIPPNW（核戦争防止国際医師会議）世界大会に奔走した田代 聡 IPPNW日本支部事務総長（原爆放射線医科学研究所教授）にご報告いただきます。

▼ 報告 ▼

日本バグウォッシュ会議代表
（情報メディア教育研究センター教授）
稲垣 知宏 及び 学生
IPPNW日本支部事務総長
（原爆放射線医科学研究所教授）
田代 聡 及び 学生

2025年

12月20日(土)

13:00～16:20

(12時半受付開始)

広島大学 霞キャンパス
凌雲棟3階(R304)

入場無料

お気軽にご参加ください！



霞キャンパスへの
アクセスはこちら↑



凌雲棟

お申込は
こちら！



<https://forms.office.com/r/Z2jtJnkHd7>

お問い合わせ 広島大学原爆放射線医科学研究所
☎082-257-5802



令和 7 年 1 1 月 2 6 日

「HIRAKU-Global 国際シンポジウム」

開催のお知らせ

広島大学は令和元年度に文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業（プログラム名：地方協奏による世界トップクラスの研究者育成（HIRAKU-Global）」に採択され、世界トップレベル若手研究人材の育成を目指しています。

この度、HIRAKU-Global 国際シンポジウム“Developing Researchers to Drive Globally Impactful Research”を下記のとおり開催します。

本シンポジウムでは、HIRAKU-Global 育成プログラムの 1 つである国際共同研究によって得られた成果等について、HIRAKU-Global 育成教員から講演します。また、基調講演では、世界的に顕著な研究実績があり、国内外で研究者育成に豊富な実績を持つ研究者である National Aeronautics and Space Administration (NASA) の MARY A. VOYTEK（メアリー ボイテック）氏を招聘予定です。

記

- 日 時 令和 8 年 1 月 19 日（月）13:00～16:45
- 場 所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅北口（Hall 3B）
（広島市東区二葉の里 3-5-7 GRANODE 広島
広島駅北口から徒歩 3 分）
- 対 象 若手研究者、メンターを務めているシニア研究者、
若手育成に関心のある研究者など
- プログラム 別紙参照
- 言 語 英語のみ（日本語通訳なし）
- 参加費 無料
- 申し込み 広島大学ホームページから（締切日：令和 8 年 1 月 12 日）
（<https://www.hiroshima-u.ac.jp/hiraku-g/news/92707>）
- 定員 100 人

- 取 材 すべてのプログラムについて取材が可能です。講師、参加者へのインタビューについては、当日スタッフにお尋ねください。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室
研究推進グループ 大野 和司
TEL：082-424-4451
メール：hiraku-global@office.hiroshima-u.ac.jp

HIRAKU-Global

国際シンポジウム

Developing Researchers to Drive Globally Impactful Research

2026年1月19日(月) 13:00 - 16:45 (JST)

TKPガーデンシティPREMIUM広島駅北口 (ホール 3B)

言語: English



【基調講演】 KEYNOTE SPEAKERS

MARY A. VOYTEK (PLANNED)

Ames Research Center

National Aeronautics and Space

Administration (NASA), USA

Acting Exobiology Branch Chief

[※追加の基調講演者を調整中です]

【招待講演】 INVITED SPEAKERS

梅村 比丘 UMEMURA TOMOTAKA

広島大学 大学院人間社会科学研究科

Hiroshima University Graduate School of Humanities and Social Sciences

1st Cohort HIRAKU-Global Researcher

長谷 栄治 HASE EIJI

徳島大学 ポストLEDフォトンクス研究所

Tokushima University Institute of Post-LED Photonics (pLED)

1st Cohort HIRAKU-Global Researcher

JEREMY P. BRADSHAW

University of Bath, UK

HIRAKU-Global Advisory Board Member

ALASTAIR G. MCEWAN

University of Queensland, Australia

HIRAKU-Global Advisory Board Member

【講演概要】 ABSTRACT

HIRAKU-Global国際シンポジウムでは、社会に直接的な影響を与え始めているHIRAKU-Globalのシニア研究者および同プログラムの修了生が登壇し、国際的な共同研究を通じてどのように成長・発展してきたかに焦点を当てます。また、日本国内外で多くの研究者の育成に大きく貢献してきた世界的に著名な研究者たちの経験も紹介します。HIRAKU-Globalが研究者育成支援の模範（ゴールドスタンダード）となることを目指し、中国・四国地域で進行中の素晴らしい取り組みを世界と共有できることを楽しみにしています。

酒井 大史 SAKAI HIROSHI

愛媛大学 プロテオサイエンスセンター

Ehime University Proteo-Science Center

1st Cohort HIRAKU-Global Researcher

蓮池 里菜 HASUIKE RINA

山口大学 大学院創成科学研究科

Yamaguchi University Graduate School of Sciences and Technology for Innovation

2nd Cohort HIRAKU-Global Researcher

ROBERT W. MAHLEY

Gladstone Institutes, USA

HIRAKU-Global Advisory Board Member

原山 優子 HARAYAMA YUKO

GPAl東京専門家支援センター、東北大学、山口大学

GPAl Tokyo Expert Support Center, Tohoku University, and Yamaguchi University, Japan

HIRAKU-Global Advisory Board Member

【参加登録】 REGISTRATION

Registration Form: <https://tinyurl.com/HGSympoReg>

Event Website: <https://tinyurl.com/HGIntlSympo>

Deadline: January 12th, 2026 @ 23:59 JST

Registration Fee: Free



【お問い合わせ先】 CONTACT

HIRAKU-Global 事務局 / 広島大学 学術・社会連携室

E-mail: hiraku-global@office.hiroshima-u.ac.jp

【主催】 HOST

文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業(プログラム名: 地方協奏による世界トップクラスの研究者育成(HIRAKU-Global))」

【共催】 Co-Hosts

科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」

広島大学創発的次世代研究者育成・支援プログラム (SPRING)



HIRAKU-Global International Symposium

Developing Researchers to Drive Globally Impactful Research

Monday, January 19th, 2026 | 13:00 – 16:45 JST | Language: English

TKP Garden City Premium Hiroshimaeki Kitaguchi Hall 3B | Hiroshima, Japan



KEYNOTE SPEAKERS

MARY A. VOYTEK (PLANNED)

Ames Research Center

National Aeronautics and Space
Administration (NASA), USA

Acting Exobiology Branch Chief

[CURRENTLY ARRANGING ANOTHER
PENDING KEYNOTE SPEAKER]

INVITED SPEAKERS

UMEMURA TOMOTAKA

Hiroshima University

Graduate School of Humanities and Social Sciences

1st Cohort HIRAKU-Global Researcher

HASE EIJI

Tokushima University

Institute of Post-LED Photonics (pLED)

1st Cohort HIRAKU-Global Researcher

JEREMY P. BRADSHAW

University of Bath, UK

HIRAKU-Global Advisory Board Member

ALASTAIR G. MCEWAN

University of Queensland, Australia

HIRAKU-Global Advisory Board Member

ABSTRACT

The HIRAKU-Global International Symposium will feature senior HIRAKU-Global Researchers and Alumni whose research has begun to directly impact society, with a focus on how they have been shaped by their international collaborations. The symposium will also highlight the experiences of more established world-renowned researchers who have had a major hand in developing researchers in Japan and abroad. We hope that HIRAKU-Global becomes the gold standard of how to support developing researchers and look forward to sharing the great things that have been happening in the Chugoku-Shikoku region with the rest of the world

SAKAI HIROSHI

Ehime University

Proteo-Science Center

1st Cohort HIRAKU-Global Researcher

HASUIKE RINA

Yamaguchi University

Graduate School of Sciences and Technology for Innovation

2nd Cohort HIRAKU-Global Researcher

ROBERT W. MAHLEY

Gladstone Institutes, USA

HIRAKU-Global Advisory Board Member

HARAYAMA YUKO

GPAI Tokyo Expert Support Center, Tohoku University, and

Yamaguchi University, Japan

HIRAKU-Global Advisory Board Member

REGISTRATION

Registration Form: <https://tinyurl.com/HGSympoReg>

Event Website: <https://tinyurl.com/HGIntlSympo>

Deadline: January 12th, 2026 @ 23:59 JST

Registration Fee: Free



HOST

"Home for Innovative Researchers and Academic Knowledge Users Driving Global Impact (HIRAKU-Global)" under the "Strategic Professional Development Program for Young Researchers" by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

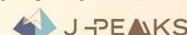
CONTACT

HIRAKU-Global Office, Office of Research and Academia-
Government Community Collaboration, Hiroshima University

E-mail: hiraku-global@office.hiroshima-u.ac.jp

Co-Hosts

"Program for Developing and Supporting the Next-Generation of Innovative Researchers at Hiroshima University (SPRING)" under the "Support for Pioneering Research Initiated by the Next Generation" by the Japan Science and Technology Agency (JST)



HIRAKU-Global International Symposium

Subtitle: Developing Researchers to Drive Globally Impactful Research

January 19th, 2026 – 1PM - 4:45PM

In-person: TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅北口 (**Hall 3B**), 広島市

Target audience: Researchers, especially early career researchers, in Chugoku-Shikoku and all of Japan

Abstract: Whether to develop new technology, treat a disease, or even simply to further understand the basic principles of nature or human behavior, how to make a lasting, significant impact on society should be a goal of all researchers. But how can institutions, and society at-large, support the development of early-career researchers who can go on to accomplish such things? Given that modern research is now more international than before, HIRAKU-Global emphasizes the need for early-career researchers to expand their research activities internationally, supporting HIRAKU-Global Researchers in seeding and growing international collaborations and research networks. We hope to see these researchers mature into world-class researchers capable of producing globally impactful research.

As such, the HIRAKU-Global International Symposium will feature senior HIRAKU-Global Researchers and Alumni whose research has begun to directly impact society, with a focus on how they have been shaped by their international collaborations. The symposium will also highlight the experiences of more established world-renowned researchers who have had a major hand in developing researchers in Japan and abroad. We hope that HIRAKU-Global becomes the gold standard of how to support developing researchers, and look forward to sharing the great things that have been happening in the Chugoku-Shikoku region with the rest of the world!

新技術の開発であれ、病気の治療であれ、あるいは純粋に自然や人間の行動の基本原則をさらに理解するためであれ、持続的で大きなインパクトを社会に与えることは、すべての研究者の目標である。では、研究機関や社会全体が、それを成し遂げられるような若手研究者を育成するには、どうすればよいのだろうか。最近の研究が以前にも増して国際的となっていることを踏まえ、HIRAKU-Global では、本プログラムに参加する若手研究者の国際共同研究や研究ネットワーク拡大を奨励し、その必要性を強調している。世界的にインパクトのある研究を生み出すことのできる世界トップクラスの研究者への成長を支援している。

HIRAKU-Global 国際シンポジウム 2025 では、世界にインパクトを与え始めている HIRAKU-Global のシニアフェローが登壇する。彼らが、国際共同研究によってどのような影響を受けてきたかに注目していただきたい。さらに、基調講演者として世界的に顕著な研究実績があり、国内外で研究者育成に豊富な実績を持つ研究者を招聘する。中国・四国地方で進んでいる HIRAKU-Global の研究者育成支援の実績を、世界に発信する。

Schedule

13:00 – 13:05 Opening Remarks – **Hiroshima University President OCHI Mitsuo**

Keynote Presentation(s)

13:05 – 14:15

Keynote Speaker – **Dr. Mary A. VOYTEK (NASA) (Planned)**

Keynote Speaker – **【Currently arranging another pending keynote speaker】**

HIRAKU-Global Researcher Presentations

14:15 – 14:25 Overview of HIRAKU-Global and Introduction of the International Symposium's HIRAKU-Global Researcher Speakers – **Tony Z. JIA (HIRAKU-Global Program Manager)**

14:25 – 14:45 HIRAKU-Global Researcher – **UMEMURA Tomotaka (Hiroshima University)**

14:45 – 15:05 HIRAKU-Global Researcher – **SAKAI Hiroshi (Ehime University)**

15:05 – 15:15 Coffee Break

15:15 – 15:35 HIRAKU-Global Researcher – **HASE Eiji (Tokushima University)**

15:35 – 15:55 HIRAKU-Global Researcher – **HASUIKE Rina (Yamaguchi University)**

HIRAKU-Global Advisory Board Member Presentations

15:55 – 16:00 Introduction of the International Symposium's HIRAKU-Global Advisory Board Member Speakers – **Tony Z. JIA (HIRAKU-Global Program Manager)**

16:00 – 16:10 HIRAKU-Global Advisory Board Member – **Jeremy P. BRADSHAW (University of Bath, UK)**

16:10 – 16:20 HIRAKU-Global Advisory Board Member – **Robert W. MAHLEY (Gladstone Institutes, USA)**

16:20 – 16:30 HIRAKU-Global Advisory Board Member – **Alastair G. McEWAN (University of Queensland, Australia)**

16:30 – 16:45 Closing Remarks – **HARAYAMA Yuko (HIRAKU-Global Mentor, Advisory Board Member)**

16:45 – 17:00 Departures/moving to reception venue

17:00 – Reception for HIRAKU-Global members and invited guests (Venue close to hall)



令和 7 年 1 1 月 2 6 日

広島大学総合博物館 第 34 回ふむふむギャラリー

「被爆 80 年、霞キャンパスで学ぶ近代遺跡」

広島大学霞キャンパスは、その全域が「陸軍関連遺跡（兵器補給廠地点）」となっています。広島大学霞？キャンパスの歴史、とりわけ医学部の歴史を語るうえでは、この地が近代日本の歴史にとって重要な場所であったことを、多くの方に知ってもらいたく、霞キャンパスや附属中、高等学校のある翠地区、広島サッカースタジアム（エディオンピースウィング広島）建設地点である中区基町から出土した陶磁器類を展示し、調査の成果をパネルで解説します。移築して復元した石組み桝や水路、煉瓦の建物基礎などもご覧いただけます。

被爆 80 年にあたり、広島市内の近代遺跡から当時の暮らしや文化を学び、改めて平和や戦争、広島の歴史について思い巡らせてもらえることを願い、本展示会を開催します。

【会場】広島大学医学部医学資料館（広島市南区霞 1-2-3） ※入場無料

【会期】2025 年 1 2 月 1 日（月）～2026 年 1 月 3 0 日（金）

休館日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12 月 27 日～1 月 4 日）

開館時間：10 時～16 時

※12 月 12 日（金）・22 日（月）、1 月 14 日（水）は開館時間内に
随時展示解説を行います。

【協力】（公財）広島市文化財団、広島大学医学部医学資料館

【関連行事】2025 年度広島大学公開講座（後期）

「被爆 80 年、霞キャンパスで学ぶ近代遺跡と医学部の歴史」

2026（令和 8）年 1 月 10 日（土）13:00～17:15

広島大学霞キャンパス 原爆放射線医科学研究所研究棟 5 階講堂

座学に加え、霞キャンパス遺跡巡りと医学資料館の見学を行います。

※定員に達し、すでに申込は締め切られています。

【お問い合わせ先】

広島大学総合博物館 埋蔵文化財調査部門

TEL:082-424-6198 FAX:082-422-7012

E-mail:hmaibun@hiroshima-u.ac.jp



広島大学霞キャンパスにある陸軍関連遺跡（兵器補給廠地点）とサッカースタジアム建設地点の輜重隊施設跡等から出土した陶磁器類を展示し、調査の成果や当時の暮らしと文化について解説します。移築して復元した石組み柵や水路、煉瓦の建物基礎などもご覧いただけます。

広島大学総合博物館 第34回ふむふむギャラリー

被爆80年、霞キャンパスで学ぶ近代遺跡

協力：（公財）広島市文化財団、広島大学医学部医学資料館

【会場】広島大学医学部医学資料館 ※入館無料

広島市南区霞1丁目2番3号 TEL：082-257-5099

※会場の場所は、医学資料館ホームページのキャンパスマップよりご確認ください。

【会期】2025年12月1日（月）～2026年1月30日（金）

休館日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12月27日～1月4日）

開館時間：10時～16時

※12月12日（金）・22日（月）、1月14日（水）は開館時間内に随時展示解説を行います。

【医学部医学資料館 HP】

https://www.hiroshima-u.ac.jp/med/about/Institute_of_History_of_Medicine

【問合せ先】

広島大学総合博物館 埋蔵文化財調査部門

〒739-8524 広島市鏡山1-1-1 TEL：082-424-6198

E-mail：hmaibun@hiroshima-u.ac.jp



広島大学総合博物館
Hiroshima University Museum



第 185 回 学長定例記者会見 お知らせ事項 5

令和 7 年 11 月 26 日

— 吃音のある若者が、接客を通して社会とつながる場を創出 —

第 1 回 注文に時間がかかるカフェ in 広島

広島大学ダイバーシティ & インクルージョン推進機構ウェルビーイング推進室は、吃音（きつおん）のある若者が店員として来場者をお迎えする「注文に時間がかかるカフェ」を開催いたします。本イベントは、吃音のある若者が接客の場で自信や自己肯定感を育むことを目的とするとともに、参加者が吃音に対する理解を深め、互いの違いを尊重し合う社会づくりを目指す取り組みです。

吃音は、話したいのに言葉が出にくくなったり、言葉がつかえてしまう発話の特徴であり、日常生活やコミュニケーションに不安を抱える当事者も少なくありません。本イベントでは、来場者が「待つこと」そのものを大切にしながら交流を行うことで、吃音のある人々が安心して自分らしくいられる環境づくりを社会全体で考える機会を提供します。

飲み物はすべて無料で提供し、年齢を問わずどなたでも参加可能です（事前予約制）。

■ 開催概要

日 時：令和 7 年 12 月 7 日（日）

会 場：広島大学 きてみんさいラボ（JR 広島駅南口隣接 / 広島 JP ビル 2 階）

参加費：無料

参加対象：どなたでも（全年齢）

申込方法：注文に時間がかかるカフェ公式ウェブサイトより事前申込

https://peraichi.com/landing_pages/view/kitsuoncafe

プログラム（各回 50 分制）

時間	内容
13:00 / 14:00 / 15:00 / 16:00	開場・受付、接客体験開始

内容：吃音のある若者による接客体験、参加者との交流、吃音に関する理解促進活動

提供メニュー（無料）：

ホットコーヒー、ホットティー、ホットココア、アイスコーヒー、アイ스티ー、オレンジジュース

※当事者スタッフの負担軽減のため、ドリンクは無料提供としています。

【お問い合わせ先】

広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構 ウェルビーイング推進室
Tel : 082-4 2 4 - 3 9 0 6
E-mail : satomoko@hiroshima-u.ac.jp



ご予約開始!

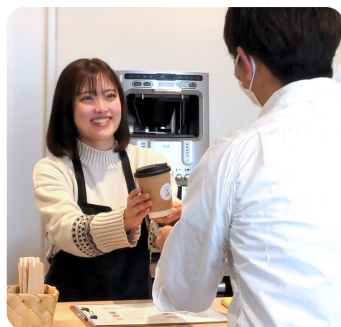
きつおん

吃音の若者が接客の夢に挑戦する 「注文に時間がかかるカフェ」

発話障がい（吃音）のある若者たちが、接客の夢に挑戦します！

お客様として
ご参加ください

安心できる環境の中で、社会とつながり、自信を育めるように—
そんな想いを込めて、この取り組みを行っています。
彼らの挑戦をあたたく見守り、応援していただませんか？



開催日

2025年12月7日(日)

開催地

広島大学きてみんなさいラボ
(JR広島駅南口隣接 / 広島JPビル2階)

営業時間

下記から好きな時間を選んでください

①13:00-13:50/②14:00-14:50/③15:00-15:50/④16:00-16:50

吃音（きつおん）とは？

話し言葉がスムーズに出ないことがある
発話障がいの1つです。
全国に約120万人いるとされていますが
認知や理解が十分ではなく、心無い言葉
に傷つき、自信を失ってしまい、
夢を諦める若者たちが沢山います。

メニュー（全商品無料）

接客メンバーの負担軽減のため0円で提供

ホットコーヒー	アイスコーヒー
ホットティー	アイ스티ー
ホットココア	オレンジジュース



事前予約制です。
ご予約はQRコードから

主催：広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構
ウェルビーイング推進室

協力：注文に時間がかかるカフェ

後援：広島県教育委員会、広島市教育委員会、東広島市教育委員会
中国新聞社、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、NHK広島放送局、日本吃音・流暢性障害学会、
ウェルビーイング学会（申請中）





令和 7 年 11 月 26 日

『広島大学 75 年史 部局史編』を公開しました。

広島大学創立 75 周年を記念し、昭和 49 年以降の学部・大学院等の学内組織の記録をまとめた『広島大学 75 年史 部局史編』を刊行しました。概要は以下のとおりです。

書籍名：『広島大学 75 年史 部局史編』

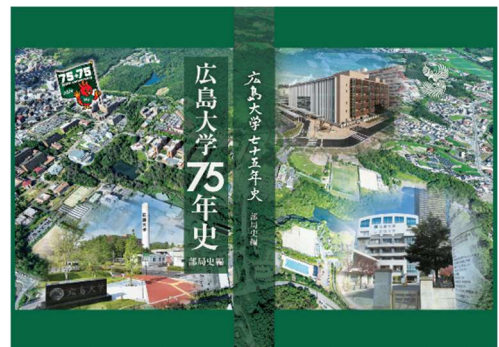
編 集：広島大学 75 年史編纂委員会
・広島大学 75 年史編纂室

発 行：広島大学

発行日：令和 7 年 11 月 5 日

サイズ：A4 版

分 量：656 ページ



【内容の特徴】

- (1) 巻頭の口絵写真を充実させ（30 ページ）、各部局の歴史を視覚的に把握できるようにしました。
- (2) 昭和 52 年 3 月に刊行された『広島大学二十五年史 部局史』に続く学内組織の記録になります。昭和 49 年 4 月から令和 2 年 3 月までの各部局の沿革、研究活動、教育活動等をバランスよく記述しました。
- (3) 各部局が分担して執筆しました。このため記録の重点や執筆スタイルに各部局ごとの特色が反映されています。

【公開の方法】

電子版での公開を基本として、以下のサイトで電子版を公開しました。一般への販売・頒布は行わず、12 月上旬以降、国内の大学図書館、県内の主要図書館等に順次発送します。

本学公式ウェブサイトー大学案内ー大学概要ー広島大学の歴史

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/about/history>

【お問い合わせ先】

広島大学 75 年史編纂室

准教授 石田 雅春

TEL:082-424-5120 FAX:082-424-6049